

取付店の方は必ずお読みください

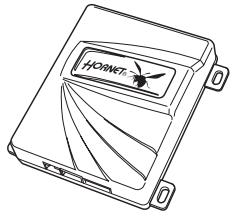
# ホーネット 728VⅡ+ 取付説明書

取り付けミスは誤作動や車両の電装品に悪影響を与える原因となります。  
車両電装の知識不足による誤った配線方法により車両の破損、故障が発生しても  
当社では一切の責任を負いかねます。

KATO-DENKI

GI-5167

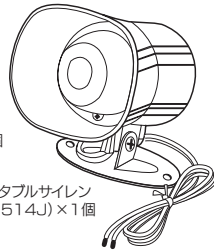
## 728VⅡ+の梱包物 (取り付けの前に必ずご確認ください)



メインユニット×1台



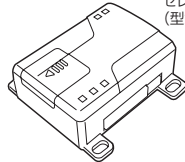
専用リモコン(型式:493VII)×2個



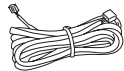
セレクトラブルサイレン  
(型式:514J)×1個



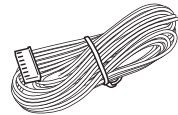
アンテナ×1個



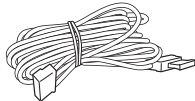
ESPスマートインターフェイス  
(型式:455V)×1台



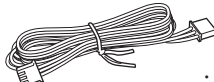
アンテナハーネス×1本



ESPスマートインターフェイス用  
メインハーネス×1束



メインハーネス×1束

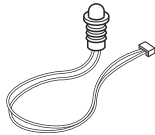


ESPハーネス×1束

- ・両面テープ(大、小)×各1枚
- ・エレクトロタップ×1個
- ・結束バンド(長)×3本  
(短)×5本
- ・ボルト(M6×10)×2本
- ・タッピングビス×2本
- ・ダイオード×5個



強制解除スイッチ×1個



動作確認LED×1個

書類梱包物の明細は  
取扱説明書をご覧ください。

※ステッカーはフロントガラスには貼らないでください。  
側面ガラスに貼る場合は、ステッカー全体がガラスの開口部の下縁から100mm以下、かつガラス開口部の後縁から125mm以内に  
おさまるように貼ってください。また、ステッカーの再発行は致しません。  
※本製品の仕様およびデザインは性能向上等のため、予告なく変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 取付上および安全上の注意

### ！必ずお読みください

- 国産車限定  
日本国内メーカーの車両に対応しています。  
並行輸入車、外国車への取り付けサポートは行っておりません。
- 本製品の衝撃センサーは取り付け位置によって感度が大きく変わります。
- 本製品は、車両盗難、車上狙い等を抑制するものであり、完全に防止するものではありません。
- 当社では製品の検査、修理時の代品貸し出しなどは一切行っておりません。また、検査、修理時に発生した  
工費等の諸費用はお客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。
- 本製品はアナログ制御になります。コンピューターによるデジタル多重電送通信線への接続はできません。  
接続をした場合は本製品のみならず車両の機器を破損する恐れがあります。
- 車種により本製品の接続が不可能な場合があります。

### ！危険

- 知識のない方が取り付けを行うと車両、システムの故障・損傷のみならず、人体にも危険が及ぶ恐れがあり  
ます。
- DC12V車両専用。24V車両には装着できません。

### ！警告

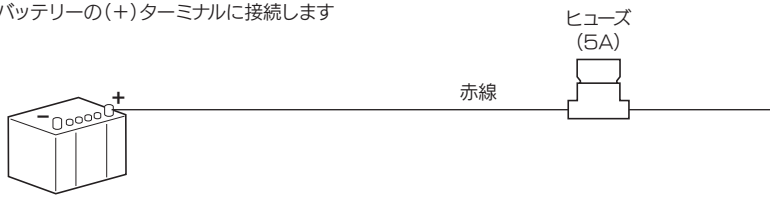
- エアバッグ (SRS) 装備車、ボディコンピューター、その他特殊な装置を装備している場合にはバッテリー  
の配線やヒューズなどとして電源供給を止めないように留意してください。電源が切断されると車両側  
が故障し機能しなくなる場合があります。また、誤作動により人身事故につながる恐れがあります。
- メインユニットおよびオプション製品等の取り付けの際は必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行って  
ください。  
排気ガスが充満して危険です。
- 各部品をパネルなどに取り付けの際は、他の機器に影響を与えない場所に設置してください。特に駆動部や  
ブレーキパイプ、ホース類には設置しないでください。
- 必ず正しい取り付け、配線を行ってください。取り付けおよび配線を誤ると、車両の装置、機器類を破損あ  
るいは損傷する恐れがあります。
- メインユニットやオプション製品を水、湿気、熱、湯気、ほこり、油などの多い場所に保管、設置しないで  
ください。  
火災、感電、故障などにより死亡や大けがになる恐れがあります。

### ！注意

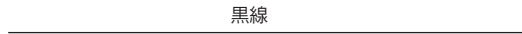
- メインユニットから各種オプション部品の配線、接続を行った場合には保護のため貫通口に必ずゴムブッ  
シュなどを使用してください。  
また、電線保護のためコルゲートチューブ (コンジットチューブ) などをご使用ください。
- SRSエアバッグや盗難防止機能付ラジオを装備した多くの車両はバッテリーが外されたことをメモリーする  
機能を有しています。このメモリー状態を解除する場合は専用のIDコードが必要となり、その車両を購入し  
たディーラーでなければ解除できなくなることがあります。
- 取付終了後、必ず取り付けをした機能のすべてをテストしてください。
- 車両のバッテリーが弱っている場合など車両本来の機能が不備がある場合には、システムが正常に作動しな  
いことがあります。常に車両の整備が行き届いた状態での取り付けを行ってください。
- 使用しない配線は必ず絶縁処理を行ってください。
- エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前たる  
ませてから通してください。

# 接続全体図 (メインユニット)

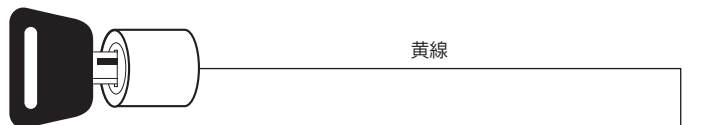
**A** バッテリーの(+)ターミナルに接続します



**A** ボディアースに接続します



**B** イグニッション線に接続します



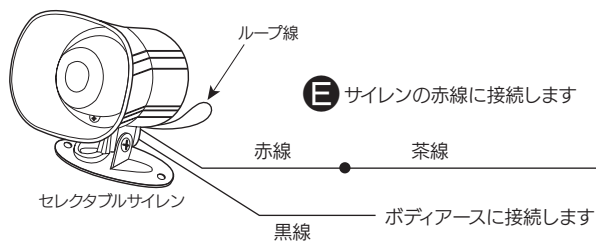
**B** ESPスマートインターフェースやオプションに接続します



**C** ドアスイッチの線に接続します

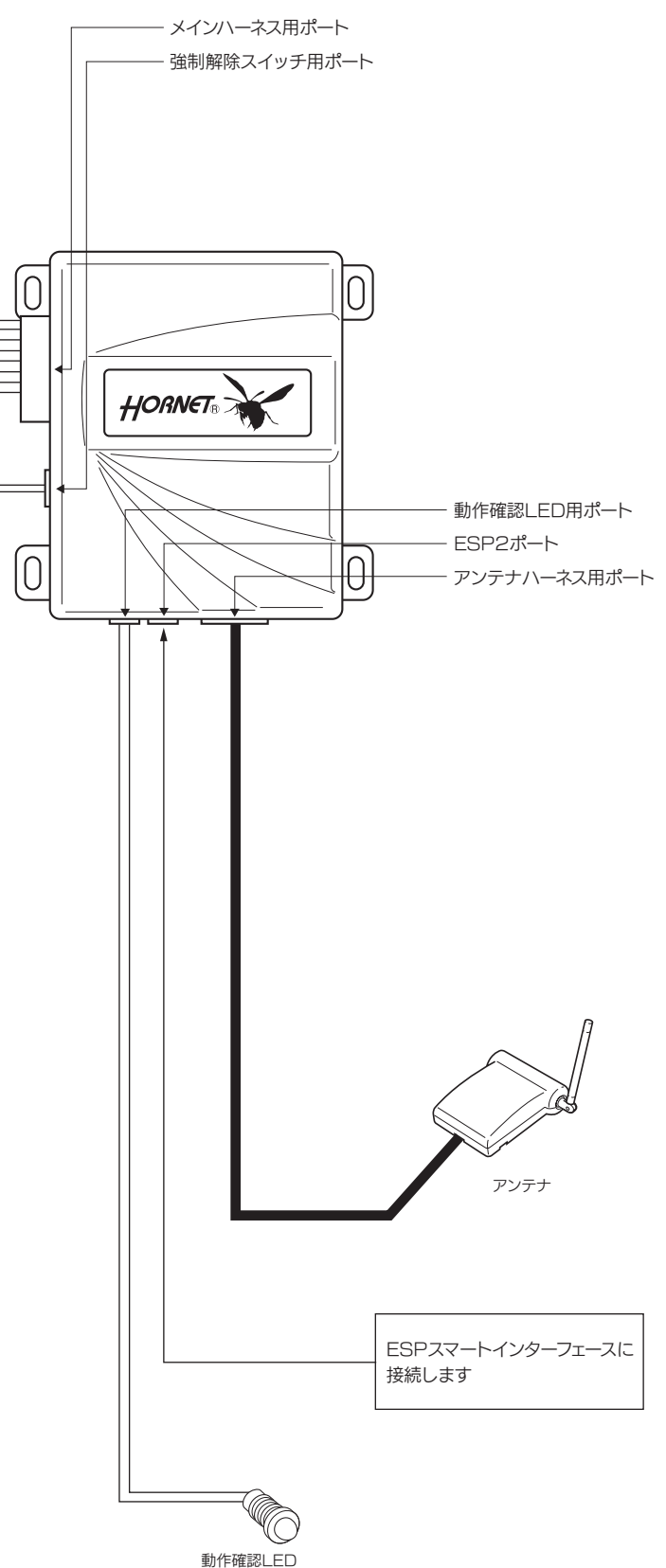


**D** スモールライトの線に接続します  
車両によってリレーが必要です



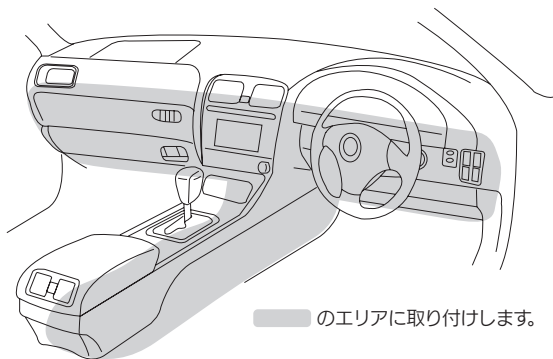
**E** サイレンの赤線に接続します

**F** オプションに接続します  
オプションがない場合は使用しません



## メインユニットの取り付け

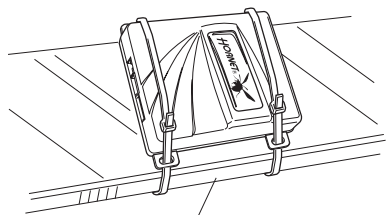
### 【取付位置例】



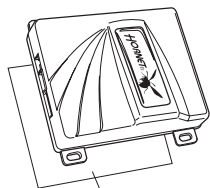
メインユニットをしっかりと固定します。

例) 結束バンド等で固定する場合

例) 両面テープで固定する場合



フレーム、車両ハーネス、プラスチック面等



両面テープ(大)

結束バンドと両面テープを併用するとより効果的です。



### 設置禁止場所

- ・エンジンルーム内
- ・フロントガラスおよびリアガラス直下等、直射日光の当たるところ
- ・運転席の足元 (ペダルの裏など)
- ・車両のコンピューターやカーナビ・カーオーディオ等の電装機器に近いところ (60cm以上離してください)
- ・エアコンのダクト

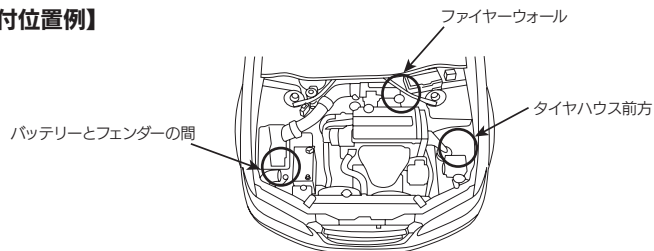
## セレクトابلサイレンの取り付け

車両のボンネットを開けてセレクトابلサイレンの取り付けスペースを確認します。

セレクトابلサイレンは次の条件をすべて満たす場所に設置してください。

- ・雨天時、走行時などでも水・油分がかからないところ
- ・熱源 (エンジン本体、排気系など) から30cm以上離れ、高温にならないところ
- ・駆動部の妨げにならないところ

### 【取付位置例】



### 【取付方法】

セレクトابلサイレンの固定金具部を車両に設置済みのボルト穴を利用して確実に固定します。タッピングビスをご利用の場合には固定に注意してください。鉄板の薄い箇所に使用すると抜けやすく、取付不良になる可能性があります。

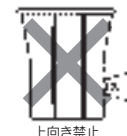
### 【取付方向例】

良い取付方向の例：ステイの位置に関係なくスピーカー面をできる限り下向きに設置します。



スピーカー面を下へ

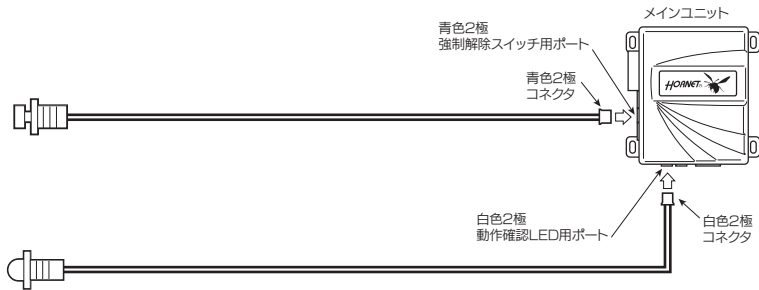
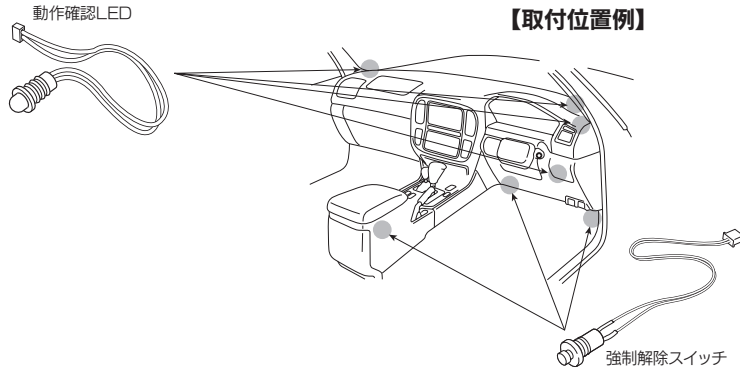
悪い取付方向の例：セレクトابلサイレンが上を向いているとスピーカー面から水・油分が浸入して回路を破損する可能性があります。(防水構造ではありません)



上向き禁止

## 動作確認LED／強制解除スイッチの取り付け

動作確認LEDは、運転席回りや、車外から確認しやすいダッシュ上部の隅などに設置してください。  
強制解除スイッチは、防犯性を考慮し、車内に乗り込んだ際に簡単に目につかない場所に設置してください。



## アンテナの取り付け

ダッシュボードに取り付けします。  
視界の妨げにならないように確実に固定してください。  
配線をパネル内に隠す場合には、線がつぶれないように注意してください。  
アンテナのケーブルはメインユニットのアンテナポートに接続します。

視界の妨げにならないように取り付ける



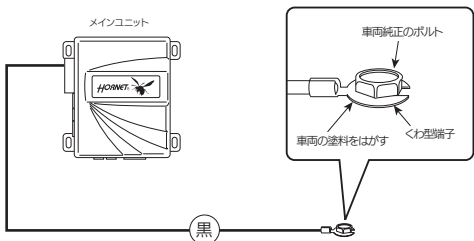
### ⚠ 注意

- 金属部へ直接アンテナを貼り付けると感度が鈍くなる場合があります。
- アンテナ線はできるだけ伸ばした状態で取り付けしてください。
- フロントガラスには貼付しないでください。

## A 電源線の接続

### 黒 (-) 電源 (ボディアース)

メインユニットのアース線（黒線）を市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。車両に装着済みのボルトなどを利用すると便利です。



**注意**

テスター等でボディアースである事を確認の上、接続してください。

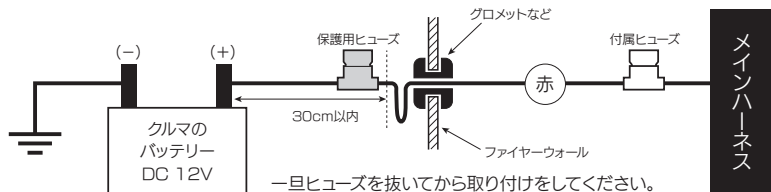
### 赤 (+) 電源 (+12V)

電源接続をする前に、一旦メインハーネス付属のヒューズを抜いてから接続を行ってください。赤線、黒線の2本の線が接続し終わった際にヒューズを差し込みます。取り外したヒューズは、なくさないように保管してください。

バッテリーの (+) ターミナル、又はイグニッションハーネス内の常時 (+) 12V 電源線等に接続します。

#### 例) 車両のバッテリーの (+) ターミナルに接続する場合

バッテリーから30cm以内に保護用のヒューズ（メインハーネスの赤線に付属のヒューズと同じ容量のヒューズ）を入れてください。



**注意**

- 車両のボディコンピューター等の設定がリセットしてしまう可能性がありますので、バッテリーを外す際には、バックアップをとるなどの処理をしてください。
- メインハーネスに付属のヒューズは、メインユニット保護用です。この目的以外には、使用しないでください。
- 電源をオーディオなどと同様の部分から取得した場合、電源容量が足りなく動作しなかったり、ノイズなどの影響を受けることがありますので、避けてください。
- エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。

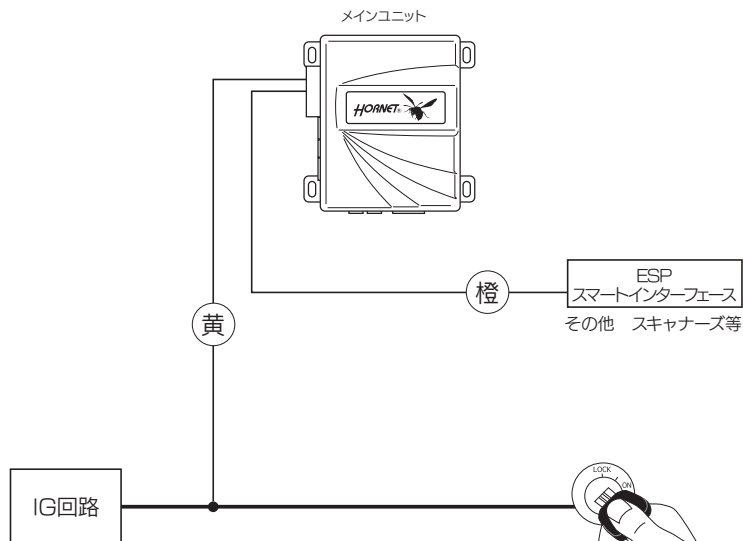
## B イグニッション線およびシステム作動出力線の接続

### 黄 (+) イグニッション入力

イグニッションキーを「ON」の位置にしたとき、および「ST」の位置にしたときに、(+ ) 12V を示す線に接続します。

### 橙 (-) 500mA システム作動出力

システム作動中に連続したアース信号を出力します。ESP スマートインターフェースの橙線と接続します。



# ⓐ ドアトリガー線の接続

## 緑 (-) ドアトリガー入力

車両のドア（テールゲート／ハッチ含む）が開いたときに、ボディアースと導通する（またはOV付近まで電圧降下する）配線に接続します。

接続先は主に車両のドアカーテシースイッチ（ドアスイッチ）になります。

＜見つけ方＞

- ① 計測器（テスター）を DC または DCV にセットしてください。
- ② (-) 検針をボディアースに接続します。
- ③ (+) 検針をテストする線にあてます。

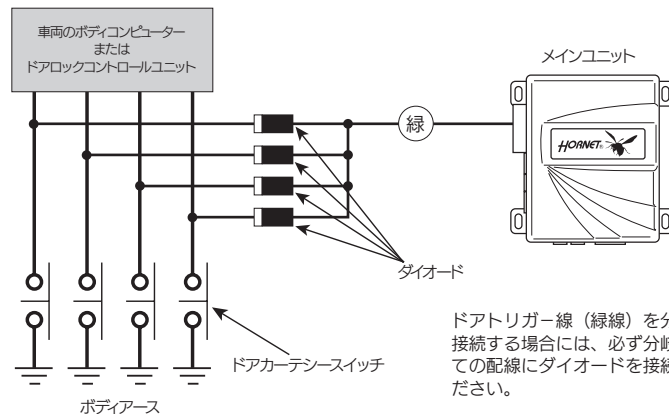
ドア開、ルームランプ消灯の状態からドアを開け、ルームランプ点灯と同時にOV付近まで電圧降下する配線を探します。

- ④ 見つけた線が全てのドアを開けても信号が取得できることを確認します。

### ⚠ 注意

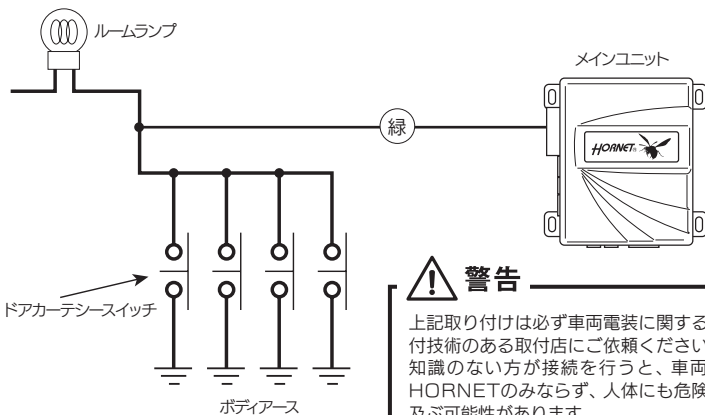
- 各ドアのドアカーテシースイッチが独立している場合には、ドアトリガー線（緑線）を分岐する必要があります。分岐する場合は配線全てにダイオードを入れてください（5個同梱）。
- ドアカーテシースイッチがないドアには取り付けできません。
- 残照灯付車の場合には、残照灯が消える前にセキュリティを作動させると、センサーレポート音が鳴ることがあります。ただし、残照灯が消えてから5秒後に自動的にドアトリガーは復帰しますので、センサーとして問題はありません。

## 【ドアスイッチが独立してコンピューターに接続されている車種への接続例】



ドアトリガー線（緑線）を分岐して接続する場合には、必ず分岐した全ての配線にダイオードを接続してください。

## 【ドアスイッチが1ラインで接続されている車種への接続例】

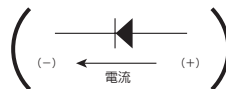
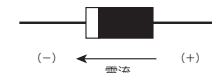


### ⚠ 警告

上記取り付けは必ず車両電装に関する取付技術のある取付店にご依頼ください。知識のない方が接続を行うと、車両、HORNETのみならず、人体にも危険が及ぶ可能性があります。

### ⚠ ヒント

#### ダイオードって何？



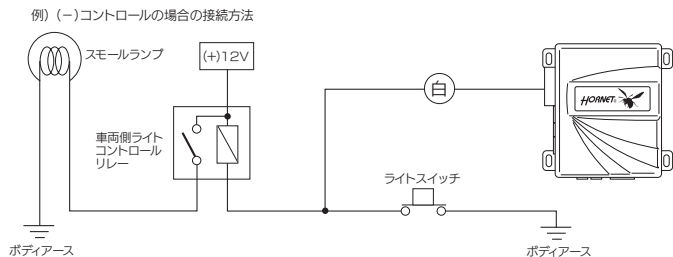
ダイオードとは、電流の流れを一方通行にするための電子部品です。接続する方向を間違えると電流が流れなくなり、正常に作動しなくなります。電流は左の図のように、帯のような印のある方向に向かって流れます。ドアトリガー線を配線する場合、複数に分岐した時には必ずダイオードを正しく接続してください。

## D ライトフラッシュ線の接続

### 白 (-) ライトフラッシュ出力

この線を接続するとスモールライトを点滅させ、HORNETの作動状況の確認や威嚇ができます。

スモールライトが (-) コントロールの場合には直接ライトスイッチの信号線に接続します。



### スモールライト (-) 線の見つけ方

スモールライトの (-) コントロール線は、通常ステアリングコラムのライトスイッチ裏にあります。ライトスイッチからリレーに対して (-) 信号を送る仕組みになっている車両の場合には、以下に示す方法でコントロール線を見つけてください。

- ① 計測器 (テスター) をDCまたはDCVにセットしてください。
- ② (-) 検針をボディアースに接続します。
- ③ (+) 検針をテストする線にあてます。  
ライトスイッチをスモールONにし、スモールライト点灯と同時にOV付近まで電圧低下する配線を探します。



### 注意

スモールライトが (+) コントロールの場合には必ずリレー (525T) を使用してください。



### 警告

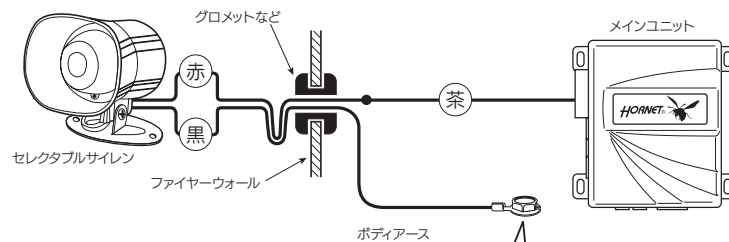
車両側の信号線をチェックする際には、検針が他の信号線などに接触しないように特に注意してください。回路などがショートし、車両部品、本製品に損傷を与える可能性があります。

## E サイレン線の接続

### 茶 (+) サイレン出力

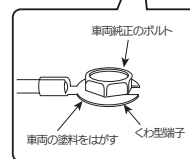
配線を室内に引き込んだ後、セレクトابلサイレンの赤線をメインユニットの茶線に接続します。

セレクトابلサイレンの黒線は市販のくわ型端子を使用して車体のボディアースにボルト止めします。



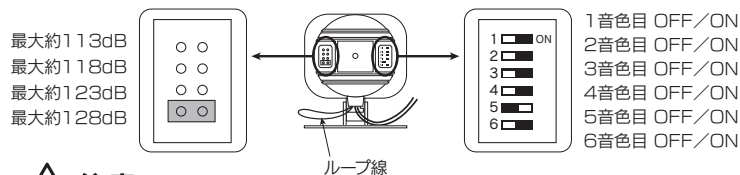
### 注意

エンジンルームから車内へ配線を通す際は、車内への水分等の浸入を防ぐため、配線を貫通口の手前でたるませてから通してください。



### セレクトابلサイレンの音量/音色設定方法

音量を 4 段階から、音色を 6 種類から選択できます。  
音量はジャンパーピンによって最大約 113dB ~ 128dB まで 5dB ずつ、音色はディップスイッチによって鳴らしたい音、鳴らしたくない音を ON / OFF できます。黒色のループ線を断線すると、クリックトーンや警告音が大きくなります。



### 注意

- ジャンパーピンがはめられていない、または破損している場合や、ディップスイッチがすべて OFF になっている場合には音は鳴りません。
- 出荷時には、音量は最大 (128dB)、音色は 5 音色目に設定されています。
- 動作確認音や警告音は設定されている一番小さい番号の音色が鳴ります。



## F その他の配線の接続

### センサー入力線の接続

#### 青 (-) センサー入力線

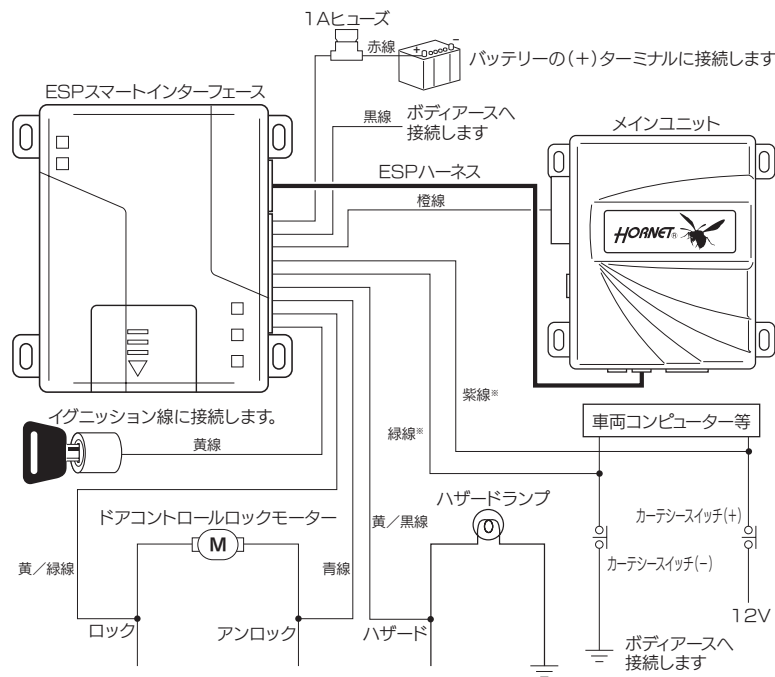
オプションセンサーやスイッチ等から (-) 信号を受け取り警報を発します。オプションセンサーを連動する場合に使用します。連動しない場合は、必ず絶縁処理してください。取り付け方法は、各オプションの説明書をご参照ください。

※出荷時は警報が鳴りますが機能設定項目10の設定にて警報ではなく警告を鳴らすことができます。

### ESP 搭載オプションとの接続

ESPスマートインターフェースからのESPハーネスを本製品のESP2ポートに差し込みます。

## 接続全体図 (ESP スマートインターフェース)



※緑線が紫線のいずれかを接続します。使用しなかった線は絶縁します。

### ⚠ 注意

- 本製品は、国産DC12V車両専用です。DC24V車両等にはご使用いただけません。
- 本製品の取り付けには正しい車両電装の知識が必要となります。必ず車両電装に関する詳しい知識と技術のある取付店に行ってください。また、車両電装の知識不足による誤った配線方法により車両の破損、故障等が発生しても当社では責任を一切負いかねます。
- 知識のない方が取り付けを行うと車両、製品の故障・損傷のみならず、人体にも危険が及ぶ可能性があります。
- 各種製品の取り付けの際は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 各配線が正しく接続されていない場合、製品が操作者の意図しない動作をすることが考えられます。
- 455Vの緑線と紫線はどちらかだけを選択して使用します。使用しない配線は必ず絶縁処理を行ってください。
- 動作確認等を行う際は、操作を行う前にすべての配線が正しく配線されている事をご確認ください。
- 本製品を使用する場合、メインユニットのライトフラッシュ機能はハザード連動で使用しないでください。
- ハザード連動でライトフラッシュ機能を使用した場合、操作のタイミングや、車両のドアロック制御タイミングによっては、メインユニットの「作動/解除」を読み込み、455Vが再度メインユニットを「作動/解除」する場合があります。
- 本製品は防水、耐熱構造ではありませんので水・油分が侵入しない熱源から離れた場所に設置してください。(車両室内専用)
- 車両のバッテリーが弱っている場合など、車両本来の機能に不備がある場合には、製品が正常に作動しないことがあります。
- 常に車両の整備が行き届いた状態で取り付けを行ってください。
- 本製品を故意に分解及び改造変更は絶対にしないでください。製品本来の機能を損なうのみならず、重大な事故が発生する可能性があります。また、分解及び改造変更を行った製品は製品保証の保証対象外となります。ご注意ください。
- 当社では製品の検査、修理時の代品貸し出しなどは一切行っておりません。あしからずご了承くださいませ。



## 信号系統図 (ESP スマートインターフェース)

配線色	仕様
赤	(+)12V電源
黒	(-)電源
橙	(-)システム作動入力
紫	(+)ドアトリガー入力
緑	(-)ドアトリガー入力
黄/黒	(+)ライトフラッシュモニター入力
青	(+)ディスアーム入力
黄/緑	(+)アーム入力
黄	(+)イグニッション入力

## 各配線の接続先 (ESP スマートインターフェース)

### ■メインハーネス

配線色	接続先
赤	車両バッテリー等の安定した常時(+)12Vが取得できる場所に、別途、市販品等のヒューズ(1A)を介して接続します。
黒	車両のアースに接続します。車両コンピューターとは別の場所で接続します。
橙	メインユニットのシステム作動出力線(橙線)に接続します。
紫	ドアが開いたときに(+)12Vが得られる線に接続します。緑線を使用する場合は絶縁します。
緑	ドアが開いたときにアースに落ちる線に接続します。紫線を使用する場合は絶縁します。
黄/黒	ハザードランプ線等、純正キーレスで「ロック/アンロック」をした時に、ハザード信号を検出できる線に配線します。
青	運転席側ドアモーターへ、アンロック時に電源を供給する線に接続します。純正キーレスでアンロック操作をした際に、モーターへ12Vを供給する線です。
黄/緑	運転席側ドアモーターへ、ロック時に電源を供給する線に接続します。純正キーレスでロック操作をした際に、モーターへ12Vを供給する線です。
黄	イグニッションキーをONにしたときと、セルを回しているときに、(+)12Vが流れる線に接続します。

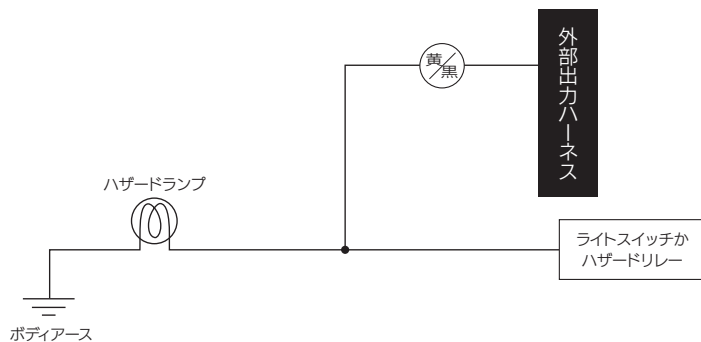
### ■ESPハーネス

配線色	接続先
3極コネクタ (赤・橙・黒)	メインユニットのESPポートへ接続します。

## 各配線の接続先 (ESP スマートインターフェース)

### 黄/黒 ハザードフラッシュ入力 (+)

不正にドアアンロックを行ったときに、システムOFFしないようにするための線です。純正キーレスでアンロックボタンを押したときにハザードフラッシュする場合、ハザードフラッシュ線に接続します。

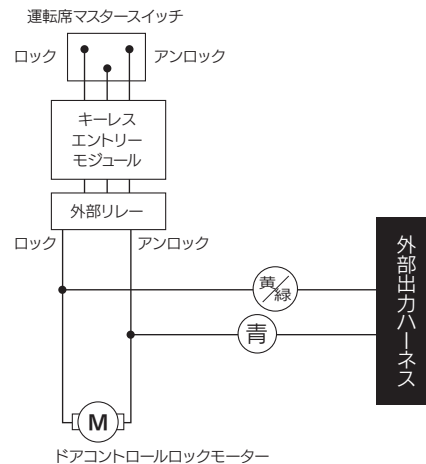


### 青 ドアアンロック入力 (+)

ドアアンロックしたことを感知して、システムをOFFするための線です。運転席側のドアアンロックモーター線に接続します。

### 黄/緑 ドアロック入力 (+)

ドアロックしたことを感知して、システムをONするための線です。運転席側のドアロックモーター線に接続します。



# 機能設定 (ESP スマートインターフェース)

## リアーム機能：初期設定 OFF

純正キーレスでセキュリティを解除した後に条件を満たした場合にリアーム機能が働きます。

条件1: セキュリティを作動状態から解除し、60秒以内にドアを開けなかった場合、再び作動状態にします。

条件2: イグニッション ON の状態から OFF にし、60秒以内にドアを開けなかった場合、セキュリティを作動状態にします。

※ HORNET のリモコンでセキュリティを解除した場合にはリアーム機能は動きません。

※セキュリティ解除後、条件を満たす前にドア開けた場合はリアーム機能は動きません。

※車両にリロック機能がある場合、この機能は必要ない場合もあります。

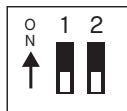
## ディスアームロック機能：初期設定 OFF

セキュリティ作動中にドアを開けた場合、純正リモコンでの操作を受け付けなくなります。HORNET のリモコンでセキュリティを解除した後は、再び純正リモコンの「施錠／解錠」操作に連動して、メインユニットを「作動／解除」することが出来るようになります。

## 【機能設定変更方法】

1. 本製品のスライド蓋を外します。
2. 基板上にあるディップスイッチで設定を変更します。
3. ケースを元に戻します。

ディップスイッチ	設定項目	ON / OFF
1	リアーム機能	ON / OFF
2	ディスアームロック機能	ON / OFF



初期設定

## 使用上の注意

### ！必ずお読みください

- 本製品の作動の有無にかかわらず、車両盗難、部品盗、車上ねらい等が発生しても当社では責任を一切負いかねます。
- 当社では製品の検査、修理時の代品貸し出しなどは一切行っておりません。あしからずご了承くださいませ。
- 車両純正キーレスでの「施錠／解錠」操作のさい、ハザードランプが点滅しない車両では使用できません。
- この「使用上の注意」をご覧の取付店舗様は、必ず御利用者様にも「使用上の注意」を御案内くださいませ。

# リモコンの同調 (登録) 特許

## ！ ヒント

### 【リモコンの同調について】

ホーネットシリーズのリモコンは、リモコンごとに異なったIDコードを使用しています。(コードは7378京6976北通り以上)

お客様が新しくリモコンを使用する場合には、リモコンのIDコードをメインユニットに登録する作業が必要になります。この登録作業を「リモコンの同調」といいます。

製品を初めて取り付けした時、新しいリモコンを増設する時には、必ず以下の手順で使用するためのリモコンの同調を行ってください。

### 《同調の手順》

- ① ホーネットのメインハーネス (電源線があるハーネス) と ESP ハーネスを抜きます。
  - ② 数秒時間において、メインハーネスを差し込みます。  
※ ESP ハーネスは差し込みません。
  - ③ 5秒以内に (電源投入音「ビッビー」が鳴る前に) リモコンの ボタンを押します。
  - ④ 確認音「ビッ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの ボタンを押します。
  - ⑤ 確認音「ビッビッ」が鳴ったらボタンをはなし、再度リモコンの ボタンを押します。
  - ⑥ 確認音「ビービ」が鳴ったらボタンをはなし、そのまま待ちます。
  - ⑦ 約5秒後に、自己診断終了の確認音「ビッビー」が鳴ります。
  - ⑧ 設定終了です。
- ※各操作を5秒以内に行わないと、同調が完了せずに設定を終了します。最初からやり直してください。

工場出荷時の リモコンの登録状態	アドレス1	アドレス2	アドレス3	アドレス4
	リモコン1	リモコン2	空き	空き
リモコン3を同調	リモコン1	リモコン2	リモコン3	空き
リモコン4を同調	リモコン1	リモコン2	リモコン3	リモコン4
リモコン5を同調	リモコン5	リモコン2	リモコン3	リモコン4

リモコン5を登録すると、最初に同調をしたリモコン1が追い出されます (押し出し式)。

## ！ 注意

- 5個目のリモコンを設定した場合には、最初に設定されていたリモコンのIDコードが押し出されます。
- リモコンを紛失した場合は、リモコンのすべての登録を抹消するため、残りのリモコンで4回同調を行い、紛失したリモコンのIDを押し出してください。第三者のリモコンでは本製品のコントロールができません。
- それぞれの手順が5秒以内に行われない場合は、同調されないまま設定を終了します。


# メインユニットのチェック方法


メインユニットの取り付け、配線が終了したら、本体の機能チェックを行ってください。テスト手順は次の通りです。

## 《HORNETのリモコンの場合》

### 1：オン、オフの確認

エンジンを停止し、すべてのドアを開めてください。

リモコンの  ボタンを1秒ほど押すごとに、確認音が鳴ってシステムON/OFFすることを確認してください。

リモコンの  ボタンを1秒ほど押して、確認音が1回鳴る（システムONする）ことを確認してください。

システム状態 / ON 5 秒以上待ちます

### 2：ドアトリガーの確認

それぞれのドアを開けたとき、サイレンが鳴ることを確認してください。

リモコンの  ボタンを1秒ほど押してハイセキュリティ解除をしてください。

システム状態 / ON 5 秒以上待ちます

### 3：2段階衝撃センサーの確認

げんこつでフロントガラスを軽く叩いてみてください。この時、警告音（ビッピッピッ…）が7～10回ほど鳴ることを確認してください。


※機能設定にて「警告設定」を「ライトフラッシュ」に変更した場合、警告音は鳴りません。

げんこつでフロントガラスを強く叩いてみてください。この時、サイレン音（ビービービー…）が鳴ることを確認してください。

※サイレンモードの感度が高すぎると警告音が鳴らず、即サイレン音が鳴ります。お客様のご希望に応じて感度を調整してください。


システム状態 / ON

### 4：メモリー機能確認

リモコンの  ボタンによりシステム解除した際に、確認音が4回（ビッピッピッピ）と鳴ることを確認してください。

システム状態 / OFF

### 5：パニックモードの確認

リモコンの  ボタンを1.5秒以上押したとき、サイレンが鳴り出すことを確認してください。

リモコンの  ボタンをもう一度1秒ほど押してサイレンが止まることを確認してください。

システム状態 / OFF

## 《純正キーレスエントリーの場合》

### 1：オン、オフの確認

エンジンを停止し、すべてのドアを開めてください。

純正リモコンでロック/アンロック操作をするごとに、確認音が鳴ってシステムON/OFFすることを確認してください。

純正リモコンでロック操作をして、確認音が1回鳴る（システムONする）ことを確認してください。

システム状態 / ON 5 秒以上待ちます

### 2：ドアトリガーの確認

それぞれのドアを開けたとき、サイレンが鳴ることを確認してください。

システム状態 / ON 5 秒以上待ちます

### 3：2段階衝撃センサーの確認

げんこつでフロントガラスを軽く叩いてみてください。この時、警告音（ビッピッピッ…）が7～10回ほど鳴ることを確認してください。

※機能設定にて警告音を「ON」に設定する必要があります。

げんこつでフロントガラスを強く叩いてみてください。この時、サイレン音（ビービービー…）が鳴ることを確認してください。

※サイレンモードの感度が高すぎると警告音が鳴らず、即サイレン音が鳴ります。お客様のご希望に応じて感度を調整してください。

システム状態 / ON

### 4：メモリー機能確認

純正リモコンでアンロック操作を行いシステム解除した際に、確認音が4回（ビッピッピッピ）と鳴ることを確認してください。

## ！必ずお読みください

●上記により数回確認を行った結果、正常動作が確認されなかった場合は、「故障かな?と思ったら」（取扱説明書参照）に従って対策をご確認ください。ホーネットは出荷時に全品正常に作動することを確認しています。

※テストの際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意してください。